

# 弘前薬剤師会広報

## 支部通信

- 10/1,2 吸入指導実技研修会  
弘前大学医学部コミュニケーションセンター
- 10/3 ひろさき健幸いきいきプロジェクト会議  
弘前市消防本部
- 10/4 急患診療所対応薬局委員会  
さいとう調剤薬局本町店
- 10/6 東北薬剤師連合大会 山形国際ホテル
- 10/8 地域保健委員会 弘前調剤センター
- 10/9 三役会 マエダ調剤薬局中央店
- 10/9 親睦委員会 さいとう調剤薬局本町店
- 10/12 津軽地域ケアネットワーク交流会 2013  
岩木文化センター あそべーる
- 10/18 これからの吸入指導連携を考える会  
～プレミアムライブシンポジウム 2013～  
ホテルニューキャッスル弘前
- 10/19 県薬役員会 県薬会館
- 10/20 弘前三師会親善ゴルフ大会  
津軽カントリークラブ  
同上 懇親会 川丁
- 10/20 PS 研修会 県民福祉プラザ(青森市)
- 10/22 支部役員会 弘前市総合学習センター
- 10/30 ひろさき健幸いきいきプロジェクト会議  
弘前市消防本部

## 役員会だより

### 第8回役員幹事会議事録

日時：平成25年10月22日(火)午後7時15分

場所：弘前市総合学習センター

出席者：前田会長、中山、磯木、白滝、津川各副会長、齋藤、奈良、小林、吉岡、上田、相馬、佐々木(直)、加藤各幹事、櫻庭、齋藤各監事

議題

#### ●報告事項

(1)藤崎中央小学校より依頼のキャリア説明会(10/4)  
薬局に児童が来て説明をする予定だったが、予定が変更になり、調剤センターから薬剤師が出向し藤崎中央小学校で薬剤師の仕事について講義を行った。

一般社団法人 青森県薬剤師会

弘前支部広報 第207号

発行日 2013年(平成25年)11月1日

発行所 (一社)青森県薬剤師会 弘前支部

弘前市富田3丁目14-1

TEL (0172)32-6205 FAX (0172)32-9199

<http://hirosakiyaku.com/>

#### (2)急患診療所対応薬局会議 (10/4)

小児科での使用薬品リストが最終決定した。

\*削除依頼の来た医薬品もあったが、全て残した。

\*追加以来の来た医薬品への対応は以下の通り。

- ・エバステル OD (5)→アレグラ(30)で対応してもらう。
- ・ソリタ T 配合顆粒 2号→OS-1 で対応してもらう。
- ・タミフルカプセル(75)は採用が決定した。

既に変更リストで動いている。

今後も定期的に会議を実施する予定。

#### (3)青森県吸入療法研究会 会議 (9/25)

出席者：(医師) 高梨先生、山本先生、鳴海先生

(薬剤師) 前田、八木橋、加藤、小笠原、上田、石田、齋藤、磯木

・青森県吸入療法研究会として正式にスタートすることになった。

・年に一回会費制の研修会を行う予定。

#### (4)吸入指導研修会 (10/1,2) 2日間で約80名参加。

・(感想) 人に教えることで、自分も勉強にもなった。

皆さんも吸入指導を行うことで、どんどん勉強してほしい。

・今後回数を重ねることを考えて、修了書などがあればいいのではないかと考えている。

#### (5)これからの吸入指導連携を考える会

～プレミアムライブシンポジウム 2013～ (10/18)

・全体で約90名、内薬剤師71名参加。

・医師側での吸入連携についての周知はまだ途中。

今後医師会広報で周知する予定とのこと。

\*現在の問題点

・実薬指導依頼書と吸入薬の処方せんを持参したが、薬局にその吸入薬の在庫がない場合がある。

・依頼書が、略字や英語で記載されている場合がある。

・何か問題があった場合は、依頼書に記載されている担当に連絡してほしい。

(7)第4回地域保健委員会 (10/8)

・カルチュアロード終了後、禁煙ののぼりを紛失。  
雨でぬれたためビニール袋に入れたのぼりを、間違えてゴミに出してしまった可能性あり。

(8)第6回親睦委員会 (10/9)

(9)その他委員会報告

【親睦委員会】

\*三師会親善ゴルフ大会が行われた。  
・団体戦 優勝：歯科医師会  
準優勝：薬剤師会、3位：医師会。  
・個人戦 優勝：齋藤武（薬剤師会）

【在宅推進委員会】

\*相馬委員長が「津軽地域ケアネットワーク交流会」に参加。  
・今年から保健所も入り全体で130名の参加があった。  
・他職種に薬剤師の現在の仕事がよく見えていないため、薬剤師側からアピールして必要がある。  
・来年は、同交流会に薬剤師が多く参加できるように、在宅推進委員会で後押しする。

●協議（審議）事項

(1)新年会

・研修会、新年会の案内文に記載する講演内容を再度弘前保健所に確認する。  
・予算については次回役員会で承認を得る。

(2)法人化検討委員会

・前回役員会でも出たとおり、三役+幹事数名で検討委員会を作る。  
・県薬の見解を聞いて、一般社団を取れば地域薬剤師会と県薬は同格となるため、共存することは好ましくない様な解釈もできる。  
・県内外他地域の状況について情報交換して、更に検討する。

(3)その他

【検査薬や手術前投薬の院外処方】

・検査薬や手術前投薬は技術料を取れず薬剤料のみで行う。  
・しかし病院では処方箋料を算定している事例があるため、各病院に対して本来なら院内で対応する薬であることを薬剤師会として伝える。

●県薬役員会報告

(1)県役理事会 (10/19)

\*「一般用医薬品の販売」のこれまでの議論を取りまとめた。  
\*薬剤師のための一般用医薬品研修で行われた症候学伝達研修を、平成27年度までに6回行う予定。  
・薬局に病名が開示された場合、それに応じた対応が薬剤師に求められる。そのため臨床判断を薬剤師も学ぶ必要がある。薬学部のカリキュラムにも組み込まれ始めているので、伝達講習を強化したいと考えている。  
\*11月に集団指導と新規薬局講習（今年から）、新規登録保険薬剤師講習あり。  
・対象となった薬局、薬剤師は必ず参加してほしい。  
\*指導・査定の情報  
・薬剤師が必要と認め疑義照会を行って一包化した場合には、必ずその旨をレセプト摘要欄に記載する。  
・ビクトーザのSU剤以外の併用はすべて査定されている。  
\*脳卒中のCMの効果が出ている。  
・今まで間に合わなかった例が多かったが、助かる例が増えている。今後別の疾患のCMも考えていく。  
\*福島県で同一敷地内（薬局所有の同一ビル内）に医院と薬局が許可された。ビル内に喫茶店が入ったことにより不特定多数の人が利用する公道と同じ扱いになった。日本薬剤師会としては抗議していく予定。  
(2)石館守三杯 (9/29)  
・優勝：細川一雅先生（みんゆう薬品）  
(3)支部長会議 (10/18)  
(4)その他、県薬出向委員会報告  
【OTC委員会】  
\*OTCのセット販売  
・早ければ1月県薬広報に記事が載る予定。  
・仕入3万円。ステッカー、ポスターをつける。  
・販売はあくまでもセットで、すでに薬局にある商品に関してそれ以外を購入するのは認められない。  
・県内3新聞、テレビに報道してもらう予定。  
【薬薬連携委員会】  
\*お薬手帳のリニューアル版を作成中。  
・医師会、歯科医師会と協議して、最終決定する。  
・電子版（スマートフォン利用）については、県薬としては利用する方向で考えている。

【生涯学習委員会】

\*学術大会(むつ)

・参加者は、10/22 現在 135 名、懇親会 52 名。

【地域保健委員会】

\*まちかど研修(弘前)は 11/17 に開催。

すでに各薬局に連絡済み。

委員会だより

広報情報委員会

● 弘前市立病院

《 新規院外登録薬品 》

オンブレス吸入用カプセル 150 μg

ノウリアスト錠 20mg

ブロチゾラム OD 錠 0.25mg 「タイヨー」

ルナベル配合錠 ULD

ルネスタ錠 1mg

ルネスタ錠 2mg

ルネスタ錠 3mg

● 弘前大学医学部附属病院

《 新規院外登録薬品 》

インドメタシン外用液 1% 「日医工」 60mL/個

ウリアデック錠 20mg

ウリアデック錠 40mg

ウリアデック錠 60mg

● 国立病院機構弘前病院

ツムラ抑肝散エキス顆粒 (医療用) 2.5g/包

マグラックス細粒 83%

マグラックス錠 330mg

開局委員会

新年会及び研修会のご案内

日 時：平成 26 年 1 月 18 日 (土)

場 所：ホテルニューキャッスル弘前

【研修会】 15 時 30 分～17 時 00 分 参加費 1000 円

講 師：中南地域県民局地域健康福祉部保健総室

指導予防課 主査 三浦 拓 先生

技師 葛西 優 先生

【新年会】 17 時 30 分～19 時 30 分 参加費 3000 円

生涯学習委員会

弘前 N 型 Ca チャネル研究会

日時：平成 25 年 11 月 22 日(金) 19:00～21:00

場所：ホテルニューキャッスル弘前

弘前市上鞆師町 24-1 TEL：0172-36-1211

【製品紹介】 19:00～19:15 持田製薬株式会社 学術

【特別講演】 19:15～20:15

「高血圧合併糖尿病性腎症の病態と治療」

東北大学保健管理センター 東北大学病院

腎・高血圧・内分泌科 准教授 小川 晋 先生

【パネルディスカッション】 20:15～21:00

～N 型 Ca チャネルの抑制作用を考える～

『循環器の立場から』

健生病院 内科 副院長 飯田 寿徳 先生

『脳の立場から』

青森県立中央病院 脳卒中ケアユニット

部長 富山 誠彦 先生

『糖尿病の立場から』

八戸市立市民病院 内分泌糖尿病科・内科

部長 葛西 伸彦 先生

主催：持田製薬株式会社

後援：弘前市医師会、青森県薬剤師会弘前支部

第 48 回 弘前糖尿病研究会(案)

日時：2013 年 11 月 29 日(金) 18:30～20:10

場所：ホテルニューキャッスル弘前

【製品紹介】 18:30～18:45 エーザイ株式会社

【基調講演】 18:45～19:25

「糖尿病合併症としての認知症を考える」

名古屋大学大学院医学系研究科老年科学教室

助教・医局長 梅垣 宏行 先生

【特別講演】 19:25～20:25

「未定」

弘前大学大学院医学研究科分子病態病理学講座

教授 八木橋 操六 先生

参加費：薬剤師 500 円

共催：弘前糖尿病研究会 エーザイ株式会社

後援：弘前市医師会、弘前歯科医師会

青森県薬剤師会弘前支部

NPO 法人青森糖尿病療養指導研究会

青森糖尿病療養指導士認定更新研修会 1 単位取得

(取得申請予定)

## 抗凝固療法 Update 2013

日時：2013年12月4日(水) 19:00～20:45  
場所：ベストウェスタンホテルニューシティ弘前  
3階 サファイヤ  
弘前市大町1-1-2 TEL:0172-37-0700

【Opening Remarks】19:00～19:20

「抗凝固療法 Update 2013」  
弘前大学大学院医学研究科循環呼吸腎臓内科学講座  
教授 奥村 謙 先生

【症例発表】19:20～20:05

【演者】  
弘前小野病院 循環器内科部長 小野 浩嗣 先生  
健生病院 副院長 飯田 寿徳 先生  
弘前脳卒中・リハビリテーションセンター  
内科副部長 目時 典文 先生

【ディスカッション】20:05～20:45

「どのように新規抗凝固薬(NOAC)を使い分けていくか？」

【パネリスト】

弘前大学医学部附属病院  
講師 輸血部 副部長 玉井 佳子 先生  
弘前小野病院 循環器内科部長 小野 浩嗣 先生  
健生病院 副院長 飯田 寿徳 先生  
弘前脳卒中・リハビリテーションセンター  
内科副部長 目時 典文 先生

主催：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社  
後援：弘前市医師会(仮) 青森県薬剤師会弘前支部

## 弘前市緩和医療学術講演会

日時：平成25年12月5日(木) 18:00～19:15  
場所：独立行政法人国立病院機構弘前病院  
1階 大会議室

弘前市大字富野町1番地 TEL:0172-32-4311

【製品情報】18:00～18:15 久光製薬株式会社

【特別講演】18:15～19:15

「昭和大学病院における緩和ケアチーム活動報告」  
昭和大学医学部 緩和医療科  
教授 樋口 比登実 先生

共催：久光製薬株式会社

後援：弘前市医師会  
青森県薬剤師会弘前支部

## 糖尿病治療 up-to-date

日時：平成25年12月6日(金) 19:00～20:30  
場所：ベストウェスタンホテルニューシティ弘前  
3階 アメジスト

【製品紹介】19:00～19:15

興和創薬株式会社

【症例報告】19:15～19:30

「当科におけるスニニー錠の使用経験」

八戸市立市民病院 内分泌糖尿病科

部長 葛西 伸彦 先生

【特別講演】19:30～20:30

「合併症予防のための糖尿病治療戦略」

千葉大学大学院医学研究院 細胞治療内科学

教授 横手 幸太郎 先生

主催：興和創薬株式会社

後援：青森県医師会

弘前市医師会(予定)

青森県薬剤師会弘前支部

青森県病院薬剤師会

青森県病院薬剤師会「生涯研修記録」0.5単位

## 第27回 薬剤師生涯セミナー

日時：平成25年12月19日(木) 19:00～20:30  
場所：土手町コミュニティパーク A館

コミュニケーションプラザ 1F 多目的ホール

弘前市土手町31 TEL:0172-31-5755

【演題名】『いのちに限りがあると気がついたとき』  
エーザイ株式会社

保険薬局政策部 久田 邦博

共催：青森県薬剤師会弘前支部 在宅医療推進委員会

エーザイ株式会社

### 社会保険委員会

#### 【自家製剤加算についての確認事項】

錠剤を半錠にしたり、粉碎する場合に自家製剤加算を算定しているケースがあると思います。

その際の注意点として以下の2点をご確認下さい。

(1)調剤録について

調剤報酬点数表の解釈 P37 (エ)

自家製剤を行った場合には、賦形剤の名称、分量等を含め製造工程を調剤録等に記載する。例えば「割線にそって半錠にした」とか「〇錠を粉碎して△g

乳糖を加えた」等

(2)レセプト摘要欄について

調剤報酬点数表の解釈 P620 (ウ)

自家製剤加算を算定した場合であって「処方」欄の記載内容からは加算事由が不明なときはその事由を記載すること。例えば「割線がないので医師の了解を得て粉碎した」等。

ご不明な点は社保委員会まで。

問い合わせ先 マリン調剤薬局 (Tel:017-763-1331)

吉岡

【社保委員会からのお知らせ】

本年度も下記の要領で青森県と東北厚生局の共同による指導を実施致します。

連絡通知により該当の保険薬局ならびに保険薬剤師は必ず参加ください（業務中であっても）。

(1)新規登録保険薬剤師集団指導

平成24年9月～平成25年8月に新規登録者および前年度欠席者

日時：平成25年11月7日（木）14：00～16：00

場所：火災共済会館（青森市新町）

(2)集団的個別指導

日時：平成25年11月19日（火）14：00～16：00

場所：火災共済会館（青森市新町）

詳しくは通知文書でご確認ください。

親睦委員会

三師会親善ゴルフ大会及び懇親会に参加して

さいとう調剤薬局 齋藤 武

10月20日に毎年恒例「三師会親善ゴルフ大会」が津軽カントリーゴルフクラブで開催され、医師会から7名、歯科医師会から9名、薬剤師会から7名の計23名の参加で行われました。

昨年は雷雨により前半の9ホールで終了でした。今年も朝からポツリポツリと雨が降っていて、今年度幹事の歯科医師会竹沢先生の「これも皆様方の日頃の行いのたまものと思い、あきらめてください。」という言葉とルール説明がありスタート。私は医師会小堀先生、歯科医師会竹沢先生、田口先生と一緒にラウンドさせていただきました。天気はぎりぎり最後までもち、楽しい時間を過ごさせていただきました。

した。

懇親会は百石町川丁で行われ、歯科医師会横山先生の名司会で終始盛り上がった会となりました。

ゴルフの結果ですが、運よく私が優勝することが出来ました。ドライバーしか練習しないので、いつもゴルフ練習会で怒られていますが、練習の成果もあってドラコンもいただきました。さらにまぐれでニアピンまでとれて、とても幸せなゴルフコンペでした。これも一緒にラウンドしていただいた先生方と、毎週木曜日のゴルフ練習会のコーチをしていただいて、平山先生、田中先生のおかげだと思っています。練習会で練習に励んでいる始めたばかりの薬剤師もどんどん出られるように継続して続けていけたらいいなと思っています。

また、今回幹事の楠美先生はじめ歯科医師会の先生方、毎年写真撮影をしてくださる医師会事務局の方々にも感謝申し上げます。来年こそは薬剤師会が優勝するぞー！

【団体戦】優勝：歯科医師会 準優勝：薬剤師会  
3位：医師会

【個人戦】優勝：齋藤武（薬剤師会）



## これからの吸入指導連携を考える会 ～プレミアムライブシンポジウム 2013～

青森県吸入療法研究会 小笠原 和也

2013年10月18日ホテルニューキャッスル弘前にて、「これからの吸入指導連携を考える会～プレミアムライブシンポジウム 2013～」が開催されました。医師16名、薬剤師71名が参加し、2人の先生にご講演いただきました。

独立行政法人国立病院機構弘前病院 呼吸器科 医長 山本 勝丸先生には『SMART療法の普及と吸入指導の重要性～弘前での今後の課題・問題点～』についてご講演いただきました。SMART療法とは、シムビコートを定期吸入に加えて頓用吸入する治療法です。実際の症例を紹介していただき、SMART療法の有効性と吸入指導の重要性を再認識しました。

前橋赤十字病院 呼吸器内科 副部長 堀江 健夫先生には『群馬県における吸入指導連携の取り組み～地域はひとつのホスピタル～』についてご講演いただきました。弘前の吸入指導連携の手本となった群馬での取り組み、現況についてお話しいただきました。在宅での吸入指導や、よりわかりやすく改訂された指導せん等とても興味深い内容が詰まったお話でした。まだ始まったばかりの弘前の吸入指導連携ですが、連携が進んでいる地域の取り組みはとても勉強になりました。

今回の2人の先生のご講演から学んだことをこれからの吸入指導連携に生かし、より効果的な吸入治療に繋がるよう頑張ろうと思います。

## 青森県吸入療法研究会からのお知らせ

青森県吸入療法研究会 加藤 傑

2013年10月より青森県吸入療法研究会が発足しました。本会の目的は、青森県における気管支喘息とCOPD治療における正しい吸入療法の普及・浸透を図ることにより、患者さんのQOLの向上に貢献することです。事業としては、(1)吸入指導実技研修会の開催。(2)各会員が所属する地域における吸入治療に関する啓発活動を行う。(3)その他、本会の目標達成に必要な事業を行うことです。

研究会・研修会は原則として年2回開催し、また開催にあたっては吸入療法のための吸入指導実技研修会と各協賛会社の共催としていきます。

7月から9月の間は弘前市薬剤師薬局とマエダ調剤薬局中央店においてプレ連携を行いました。今後は保険薬局どこにでも依頼書が来る可能性があります。弘前薬剤師会のHPにはプロセスフローや標準吸入手順書が用意されておりますので、依頼書が来てからではなく、事前に資料などをプリントアウトしておいて目を通していただくようお願い申し上げます。

「地域は一つのホスピタル」、先日ご講演いただいた前橋赤十字病院の堀江先生の演題にあったフレーズです。個々の薬局の吸入指導のレベルが高ければ良いというわけではなく、地域全体で吸入指導力をつけることが重要です。そのためには共通の指導せんを活用し標準的な指導を行い、様々な症例をまとめてフィードバックし続けることが求められます。喘息、COPDで苦しむ患者が少しでも減らせるよう地域単位で力を合わせていけたらと思います。

編集者：加藤 傑 、佐々木 直実